

● 国の動向

◇ 文部科学省
全国学力・学習状況調査 理数「得意」女子が下回る

文科省がこのほど公表した令和7年度全国学力・学習状況調査の結果では、各教科の男女別の成績も初めて明らかにした。算数・数学と理科で、平均正答率に大きな差は見られなかったが、質問調査で「好き」「得意」と答えた割合は女子が男子を下回った。同省では、「女子は理系が苦手」といった社会の「無意識の偏見」が影響している可能性を指摘している。

理科の平均正答率（スコア）は小学校の女子が58・8%、男子が55・8%、中学校は女子が50・8%、男子が50・3%

小・中学校ともに女子が男子を上回った。一方、「得意だ」と尋ねた質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えたのは小学校の女子が74・8%、男子は82・1%、中学校は女子が41・7%、男子は59・5%と男女で結果が逆転した。

◇ 文部科学省
高校の教育課程、柔軟に 必修免除、科目組み替え

文科省は、次期学習指導要領で高校の教育課程編成の学校裁量を大幅に広げる方針を示した。各学校での教科・科目の柔軟な組み替えを認める他、生徒によって必修科目を免除する仕組みを創設する。多様な生徒を受け入れている高校が実態に合わせて授業できるようにする。

7月28日の中央教育審議会

の教育課程企画特別部会で提案した。教科・科目の組み替えは、教育課程特例校の取り組みを全ての高校で認める内容。必修科目と関連する科目を組み合わせた新科目を開設したり、選択科目の中で必修科目の一部を教えたりできるようにする。こうした科目編成を後押しするため、卒業単位に含める学校設定科目を現在の20単位より増やすことを検討する他、科目の履修学年も柔軟にする。

● 地方の動向

◇ 兵庫県西宮市・同市教育委員会

部活動の地域展開推進 阪神タイガースなどと連携協定

部活動の地域展開を進めていくため、兵庫県西宮市と

市教委はこのほど、市内に本拠地を構える阪神タイガースなど4チームと連携協力協定を結んだ。各競技のトップレベルのチームとの連携を通じて、中学生のスポーツ環境の充実につなげていく狙いがある。

今回協定を結んだのは、プロ野球の阪神タイガース、J1の楽天ヴィッセル神戸、バレーボールSVリーグの大阪マーヴェラス、バスケットボールBリーグの神戸ストークスの4チーム。市内に本拠地や練習拠点があるなど、いずれも以前から同市と関係が深いチームだ。

同市では令和8年9月から休日の部活動を地域クラブ活動「プレみや」に移行する方針を示している。今回の協定で、学校の抱え込みを減らすとともに、その機運をさらに盛り上げていきたい考えだ。

◇ 北海道教育委員会

公立高希望が減少 私立の授業料無償化で

私立高校の授業料無償化の方針を受けて、中学生の15%、保護者の22%が公立高校から私立高校へ希望進路を変更したことが、北海道教委の調査で分かった。

理由としては「経済的負担」を挙げ、回答が保護者で8割近くに達した。

調査は今年5〜6月、国の方針を基に、道内の状況を調べるため、道内の中学生とその保護者を対象にオンラインで実施。中学生から1万8600件、保護者からは1万4876件の回答があった。

保護者に子どもの進路に関する希望を尋ねると、授業料無償化の方針を知る前は「自宅から通学可能な公立高校の普通科や総合学科」が76・7%だった。授業料無償化について知った後は、57・7%に減少した。

◇ 大阪市教育委員会

学校でのチャラシ配布を原則禁止

大阪市教委は7月から、市内の学校や園で事業者からのイベント等のチャラシを原則配布しないことを決めた。営利目的ではないなど、市が定めた要件を満たしたものは専用サイト上で公開する。進路に関わる内容など子どもにとって有益なものは、これまで通り紙で配布可能とする。

チャラシの仕分けや問い合わせに教職員が時間を取られる実態があった他、保護者への重要なお知らせがチャラシに紛れてしまう問題も起きていた。

◇ 群馬県高崎市教育委員会

小学校の開門を午前7時に

群馬県高崎市教委は来年度から、市内全58校の小学校の開門時間を午前7時に早める。保護者が子どもより早く家を出る共働き家庭や、ひとり親家庭の子どもに朝の居場所をつくる。学校用務員が不審者対応で校門に立ち、学校によって図書室や教室などを開放するという。

● 各種団体の動向

◇ 茨城県の高校生団体 小学生的宿題支援など報告

茨城県内の高校生ボランティア団体が集まってそれぞれの活動を報告し合うなどする交流会が8月11日、水戸市内で開かれた。県内では、昭和20年代から、子ども会の活動の支援などをする「高校生会」が発足。現在も、市町村単位で構成する会がある。小学生に、夏休みの宿題を支援するなど時代に合わせた活動について紹介し合った。県内の社会教育関係者で構成する実行委員会によるもので、「茨

城県内での高校生ボランティア団体が集まってそれぞれの活動を報告し合うなどする交流会が8月11日、水戸市内で開かれた。県内では、昭和20年代から、子ども会の活動の支援などをする「高校生会」が発足。現在も、市町村単位で構成する会がある。小学生に、夏休みの宿題を支援するなど時代に合わせた活動について紹介し合った。県内の社会教育関係者で構成する実行委員会によるもので、「茨

◇ 全国公立学校教頭会 研究大会茨城大会開催

城県高校生会サミット」として開いた。

このうち昭和50年発足の「水戸市サブリーンズ会」は市内在住の高校生と、市内の高校に在学する高校生で構成。今夏も、市役所を会場に、小学生の宿題を手助けした。

全国公立学校教頭会は7月31日、8月1日の両日、第67回研究大会茨城大会を水戸市内とオンラインによるハイブリッド方式で開催した。大会主題は「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」。

記念講演は茨城県北茨城市出身で、米米CLUBの活動で知られるアーティストの石井竜也さんが登壇。これからの学校の在り方として、「品」を育む、「個人の自由（個人主義）」を尊ぶ流れをつくっていく―重要性を指摘した。

編集協力・日本教育新聞社